

○鳩山政権スタート。文部科学副大臣に就任。

総選挙の結果は民主党の大勝利。国民の皆さんが、「政権交代で日本の閉塞感を打ち破る。」決意を固めた一瞬だったと、感慨を持って、あの開票の夜、当選の確定した一瞬をふり返っています。ありがとうございました。

民主党が国民の期待にちゃんと応えられるかどうかは、これからの私たち次第です。鳩山内閣が新しい体制で出発をした今、緊張感と必死の思いを持って、この国の新しい歴史を創っていきます。

文部科学副大臣を拝命しました。「中川さん、ちょっと意外。これまでとは違った分野での活躍ですね。」と、周りから声をかけられます。文科省でもやりたいことは一杯あります。新しい世界を広げようと張り切っています。真の教育改革、科学技術立国の実現、文化芸術の振興は、国の根幹であり、政策は全て未来志向です。

自民党時代の「形だけの副大臣」とは違って、大臣、副大臣、政務官と言った政治家が、チームでことにあたり、官僚をうごかしていきます。当面は、前の政権による15兆円の補正予算の執行停止と全面見直し。これと、特別会計にある余剰金割り出しや更なる税金の無駄遣いの検証で、来年度の4月から出発する子ども手当や高校授業料無償化などの財源を確保することです。さっそく、事務次官と官房を私たちの部屋（副大臣室は、11階）に呼んで、官僚の事務方に指示を出しました。私達自らがこの点検作業に入るための、資料開示の要求と、補正予算の執行停止、そして、これを途中で止めた場合の関係者への影響の予測を報告させることとしています。22日と23日には、連休を返上して見直し作業をしました。

私に関しての大事な会議は、3つに集約されます。川端大臣が主催する省内の私達政治家チームの三役会議。総理官邸で行われる副大臣の連絡会議。そして、民主党の文部科学常任委員会に所属する国会議員を中心にした党の政策会議です。これは私自身が主催します。

政策と国会運営について、この会議で、政府と党が直接結びついて、一元的な動きを造り出していこうと言うことです。マスコミに対する記者会見も、役人ではなく、私達が直接やることになっています。

日本がいよいよ動き出してきた。力強い胎動を感じています。

○皇居での認証式

私達27人の副大臣も皇居で総理大臣より「官記」（任命書）を拝受し陛下から認証を受けます。松の間での本番前に、一人ひとりがりハーサルをすることになりました。入り口で軽く一礼、まっすぐ進んで陛下の前で立ち止まり、深く一礼。右に向きを変えて、総理大臣の前に進み、官記を押し頂くように受け取って、後ずさり再び陛下の前に。陛下と目を合わせ、押し頂いたまま一礼。「重責、ご苦労に思います。」（記憶が定かでないが、これらしきお言葉。）をいただいて、そのまま三歩後ずさりをした上で、反転。出口付近で再び一礼して終了。委員会質疑やなんかでは落ち着いて鋭い舌鋒を見せる面々も、ここに来ると足がすくんでよろけたりするのを見て、お互い恥ずかしそうな微笑を返していました。陛下の存在感に改めて敬服しました。しかし、本番では、皆、つつがなく儀式を終えて、陛下直筆のサインを感慨深く見つめるその表情がなんともよかったです。

○新事務所で新たな出発

選挙を終えて、新しい事務所に引っ越しました。鈴鹿市神戸にある近鉄の鈴鹿市駅から、線路沿いを西に走った、道路右側の駐車場をかねた敷地にあります。線路の反対側は神戸中学校です。住所と電話番号は、この通信の表紙に記載があります。

新しいスタッフも二人。坂野達夫君が事務局長、山口善之君が鈴鹿地区担当として新たに加わりました。よろしくお願ひします。

気軽に立ち寄ってください。お待ちしております。

中川正春

